



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月31日

上場会社名 三菱化工機株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6331 URL <http://www.kakoki.co.jp>
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 高木 紀一
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 根木 貴晴 TEL 044-333-5354
 四半期報告書提出予定日 2019年11月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無： 無
 四半期決算説明会開催の有無： 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績（2019年4月1日～2019年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	18,736	24.9	450	—	498	456.1	354	779.5
2019年3月期第2四半期	15,006	14.2	△4	—	89	—	40	△96.8

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 △156百万円 (—%) 2019年3月期第2四半期 1,075百万円 (△67.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	45.28	—
2019年3月期第2四半期	5.13	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第2四半期	44,748	21,689	48.4	2,776.16
2019年3月期	46,217	22,326	48.3	2,840.15

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 21,678百万円 2019年3月期 22,326百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	50.00	50.00
2020年3月期	—	0.00			
2020年3月期 (予想)			—	50.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無： 無

2020年3月期の連結業績予想（2019年4月1日～2020年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	43,500	13.9	1,500	36.7	1,650	30.1	1,150	3.5	146.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	7,913,950株	2019年3月期	7,913,950株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	105,241株	2019年3月期	52,919株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	7,825,525株	2019年3月期2Q	7,861,041株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3） 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間のわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、個人消費は持ち直し、民間設備投資も底堅く推移する等、景気は緩やかな回復基調が続きました。一方で、米中貿易摩擦の長期化による世界経済の減速に伴い、企業の業況判断は製造業を中心に慎重さを増し、輸出や生産が低迷する等、先行き不透明感が強まりました。

このような事業環境の下、当社グループの当第2四半期連結累計期間における売上高は、前連結会計年度の受注高の増加を反映し、18,736百万円と前年同四半期に比べ24.9%の増加となりました。損益面におきましては、売上高の増加により売上総利益が増加、見積設計費を始めとする販売費及び一般管理費の減少により、営業利益は450百万円(前年同四半期は4百万円の損失)となりました。経常利益は498百万円(前年同四半期は89百万円の利益)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は354百万円(前年同四半期は40百万円の利益)となりました。

なお、当社グループでは、売上高が上半期に比べ下半期に、また、第2四半期連結会計期間末及び連結会計年度末に偏る傾向があります。

セグメントの業績は次のとおりであります。

エンジニアリング事業については、売上高12,449百万円(前年同四半期比35.0%増加)、営業損失28百万円(前年同四半期は668百万円の損失)となりました。

単体機械事業については、売上高6,287百万円(前年同四半期比8.7%増加)、営業利益478百万円(前年同四半期比27.9%減少)となりました。

なお、第1四半期連結会計期間より、2019年4月1日付で実施したグループ内組織再編に伴い、従来、単体機械事業に含めていた四日市・鹿島両工場の工事事業をエンジニアリング事業に含めることといたしました。

これにより、前年同四半期の数値は、セグメント変更後の数値と比較しております。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,469百万円減少の44,748百万円となりました。これは、現金及び預金の増加888百万円、電子記録債権の増加660百万円、仕掛品の増加410百万円、主として受注工事に係る前渡金の増加によるその他流動資産の増加431百万円等がありましたが、受取手形及び売掛金の減少3,202百万円、株価下落に伴う時価のある有価証券の評価差額の減少等による投資有価証券の減少815百万円等の影響によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ832百万円減少の23,058百万円となりました。これは、前受金の増加2,024百万円等がありましたが、支払手形及び買掛金の減少1,322百万円、短期借入金の返済による減少500百万円、未払法人税等の減少426百万円、退職給付に係る負債の減少192百万円等の影響によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ636百万円減少の21,689百万円となりました。これは親会社株主に係る四半期純利益の計上による利益剰余金の増加354百万円等がありましたが、その他有価証券評価差額金の減少566百万円、剰余金の配当による利益剰余金の減少395百万円等の影響によるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、借入金の返済、固定資産の取得、配当金の支払等に資金を使用いたしました。営業活動により資金が増加した結果、888百万円の増加となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により獲得した資金は、2,196百万円となりました。これは、仕入債務の減少1,350百万円、前渡金の増加572百万円、たな卸資産の増加498百万円、法人税等の支払い490百万円等により資金が減少いたしました。税引前四半期純利益の計上498百万円、減価償却費271百万円の計上、売上債権の減少2,538百万円、前受金の増加2,020百万円等により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用した資金は、283百万円となりました。これは、主に固定資産の取得280百万円により資金が減少したことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により使用した資金は、985百万円となりました。これは、短期借入金の返済による支出500百万円、配当金の支払額395百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間の実績及び今後の経済動向を勘案し、2019年5月15日に公表した2020年3月期の連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(2019年10月31日)公表いたしました「業績予想数値の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,078	4,967
受取手形及び売掛金	19,312	16,110
電子記録債権	1,379	2,040
製品	834	886
仕掛品	2,023	2,434
材料貯蔵品	717	753
その他	1,364	1,796
貸倒引当金	△31	△28
流動資産合計	29,681	28,959
固定資産		
有形固定資産	5,141	4,992
無形固定資産	192	231
投資その他の資産		
投資有価証券	9,998	9,182
その他	1,286	1,443
貸倒引当金	△81	△61
投資その他の資産合計	11,203	10,564
固定資産合計	16,536	15,788
資産合計	46,217	44,748
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,624	6,301
電子記録債務	2,193	2,166
短期借入金	500	—
未払法人税等	495	69
前受金	406	2,431
賞与引当金	640	648
役員賞与引当金	22	—
完成工事補償引当金	891	838
受注工事損失引当金	130	160
その他	1,163	825
流動負債合計	14,068	13,442
固定負債		
長期借入金	3,300	3,300
P C B 処理引当金	1	2
役員報酬B I P 信託引当金	18	21
退職給付に係る負債	6,313	6,120
その他	190	171
固定負債合計	9,822	9,616
負債合計	23,891	23,058

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,956	3,956
資本剰余金	4,200	4,199
利益剰余金	11,537	11,496
自己株式	△125	△210
株主資本合計	19,568	19,442
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,191	3,624
繰延ヘッジ損益	0	△17
為替換算調整勘定	△245	△255
退職給付に係る調整累計額	△1,187	△1,116
その他の包括利益累計額合計	2,758	2,235
非支配株主持分	—	11
純資産合計	22,326	21,689
負債純資産合計	46,217	44,748

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
売上高	15,006	18,736
売上原価	12,109	15,699
売上総利益	2,896	3,037
販売費及び一般管理費	2,901	2,587
営業利益又は営業損失(△)	△4	450
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	144	155
その他	24	27
営業外収益合計	170	183
営業外費用		
支払利息	19	20
支払手数料	29	28
為替差損	—	69
その他	26	16
営業外費用合計	75	135
経常利益	89	498
税金等調整前四半期純利益	89	498
法人税、住民税及び事業税	68	83
法人税等調整額	△24	48
法人税等合計	44	132
四半期純利益	45	366
非支配株主に帰属する四半期純利益	4	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	40	354

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益	45	366
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	926	△566
繰延ヘッジ損益	△3	△17
為替換算調整勘定	△22	△9
退職給付に係る調整額	129	71
その他の包括利益合計	1,029	△522
四半期包括利益	1,075	△156
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,070	△168
非支配株主に係る四半期包括利益	4	11

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	89	498
減価償却費	265	271
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	18	△22
賞与引当金の増減額 (△は減少)	105	8
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△11	△22
完成工事補償引当金の増減額 (△は減少)	△51	△53
受注工事損失引当金の増減額 (△は減少)	52	29
P C B 処理引当金の増減額 (△は減少)	△15	1
役員報酬B I P 信託引当金の増減額 (△は減少)	3	3
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△16	△89
受取利息及び受取配当金	△145	△156
支払利息	19	20
売上債権の増減額 (△は増加)	2,500	2,538
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△254	△498
前渡金の増減額 (△は増加)	40	△572
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,580	△1,350
前受金の増減額 (△は減少)	982	2,020
その他	615	△74
小計	2,617	2,551
利息及び配当金の受取額	145	156
利息の支払額	△19	△20
法人税等の支払額	△1,055	△490
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,687	2,196
投資活動によるキャッシュ・フロー		
固定資産の取得による支出	△675	△280
投資有価証券の取得による支出	△5	△4
投資有価証券の売却による収入	—	4
長期貸付けによる支出	△4	△0
長期貸付金の回収による収入	1	1
その他	5	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△677	△283
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△500
リース債務の返済による支出	△11	△5
自己株式の売却による収入	—	1
自己株式の取得による支出	—	△86
非支配株主への配当金の支払額	△34	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△29	—
配当金の支払額	△395	△395
財務活動によるキャッシュ・フロー	△469	△985
現金及び現金同等物に係る換算差額	△6	△39
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	533	888
現金及び現金同等物の期首残高	4,951	4,077
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	407	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,892	4,966

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアリング事業	単体機械事業	
売上高			
(1) 外部顧客に対する売上高	9,221	5,784	15,006
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	9,221	5,784	15,006
セグメント利益(△は損失) (営業利益(△は損失))	△668	663	△4

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	エンジニアリング事業	単体機械事業	
売上高			
(1) 外部顧客に対する売上高	12,449	6,287	18,736
(2) セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	12,449	6,287	18,736
セグメント利益(△は損失) (営業利益(△は損失))	△28	478	450

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、2019年4月1日付で実施したグループ内組織再編に伴い、従来、単体機械事業に含めていた四日市・鹿島両工場の工事業をエンジニアリング事業に変更しております。

なお、前第2四半期累計期間のセグメント情報については変更後の区分により作成したものを記載しております。